

フィンランド 基本情報

フィンランド およびフィンランド人

フィンランドの人口は約550万人です。
男性より女性の人口がやや上回っています。
年齢別では、50歳以上の人口が最多です。
フィンランド人の平均年齢は42歳です。

住民数
550万人



ラップランド地域は、
フィンランド全土の
30%を占めていま
すが、住民はわずか
18万人しかいません。



生活・都市

人口はフィンランド南部に集中しています。
最も人口密度が高い地域の中心はヘルシンキ
からほぼ100キロ北の地域になります。
フィンランド国土は縦1万キロ以上に及びます。

フィンランド人の約60%が持ち家に住ん
でいます。約70%が都市部、およびその周
辺に居住しています。田園地域に居住して
いるのは、わずか6%ですが、占める面積は
70%に上ります。

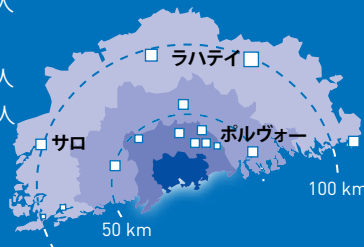
主要都市

首都圏は4つの独立した都市からなっています。
多数の市町村は首都圏に隣接しています。

**首都圏人口 140万人
都市人口 111万人**

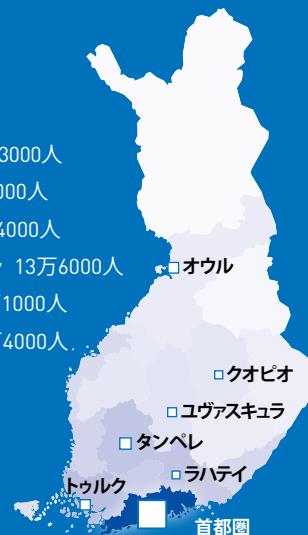
ヘルシンキ 62万4000人
エスポー 26万6000人
ヴァンター 21万1000人
カウニアイネン 9000人

**ベッドタウン
29万人**



その他の主要 都市・町

タンペレ 22万3000人
オウル 19万7000人
トゥルク 18万4000人
ユヴァスキュラ 13万6000人
クオピオ 11万1000人
ラハティ 10万4000人

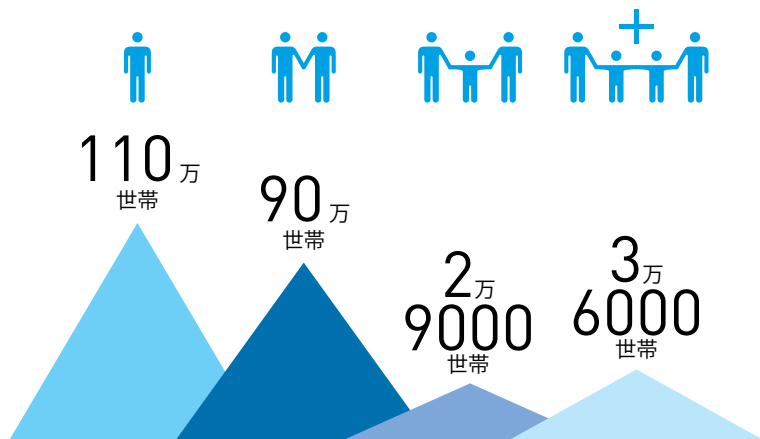


人口密度

- 177人／1 km²
- 45人／1 km²
- 34人／1 km²
- 29人／1 km²
- 24人／1 km²
- 17人／1 km²
- 14人／1 km²
- 11人／1 km²
- 4人／1 km²
- 2人／1 km²

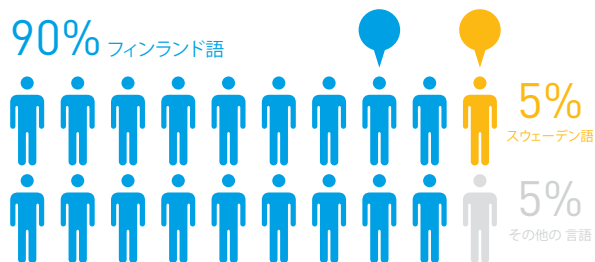
家族

100万人を超えるフィンランド人が1人暮らしをしています。約180万人が2人世帯で、80万人が3人世帯です。また180万人近くは4人以上で暮らしています。



母語

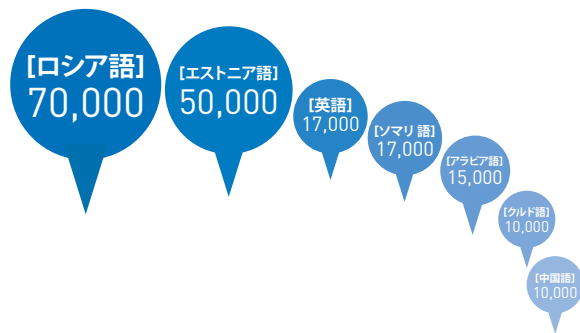
90%近くのフィンランド人が第一言語としてフィンランド語を話し、5%強はスウェーデン語を話します。フィンランド人のうち2000人を超える人々がサーミ語を第一言語としています。



フィンランドで使われているその他の言語

第一言語として、約7万人がロシア語、5万人がエストニア語、1万7000人が英語、同じく1万7000人がソマリ語、約1万5000人がアラビア語、約1万人がクルド語、また1万人が中国語を使っています。

ロシア語を話す人口のほとんどが、1990年以降にフィンランドに移住した人々ですが、その前のロシア統治時代(1809-1917)から、ロシア語を話すグループが少数ながりました。フィンランドに住むエストニア人の大部分がソ連崩壊後、フィンランドに移住してきました。

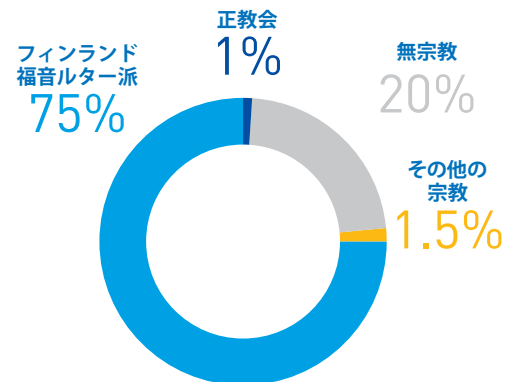


ヘルシンキ中心部にあるカンピチャペルは黙想のための施設です。教会区で働くソーシャルワーカーから、ロビーでカウンセリングを受けられます。
設計：
ミッコ・スンマネン、K2S

宗教

75%近くのフィンランド人がフィンランド福音ルター派で、1%はフィンランド正教会に属しています。フィンランド人の1.5%は上記以外の宗教を信じている一方、20%以上の人はいずれの宗派にも属していません。ただし、これらの人々のうち少数はなんらかの宗教団体に入っています。

フィンランド福音ルター派の多くは宗教活動には積極的に参加していない「文化的カトリック」です。





TEEMU TRETJAKOV / VASTAVALO



NIKILAS SJÖBLÖM

フィンランド概観

フィンランドはヨーロッパ最大の面積を有する国のひとつです。人口は550万人しかおらず、ヨーロッパでは最も人口密度の低い国です。人口は国の南部、それも少数の都市に集中しています。北部は手つかずの自然が残り、誰一人とも会わずに自然を心行くまで満喫することもできます。一方、都市では近代的ヨーロッパの雰囲気を楽しめます。

北から南まで、フィンランドは全長1000 キロにわたっています。フィンランドの魅力は多面的で、たとえば初夏には南部で海水浴を楽しめる一方、西部ではバルト海や大西洋を肌で感じることができます。フィンランドは北に位置しているにもかかわらず、メキシコ湾流のおかげで温暖な気候に恵まれています。この点は同じ緯度

に位置するカナダやロシアと異なるところです。北緯60度近辺に居住する人々の3分の1近くが、フィンランド人です。一方、フィンランド北部はユーラシアのステップ気候の影響から、さまざまな意味で大陸性気候を呈しています。

フィンランドは国全域で四季を楽しむことができます。夏は緑豊かな光の季節で、ほとんど雨も降りません。秋は雨が降ることが多く、冬は寒く大雪になります。南部では、通常12月になると雪で覆われます。一方、北部はそれより1カ月か2カ月早く雪が訪れます。南部では4月に雪解けを迎えますが、最北端の地域では真夏でもクロスカントリースキーの大会が時々開かれます。

フィンランド南部では年によって降雪が少ないこともありますが、晩春になって雪が降る年もあります。

季節は北の地域の光にも影響します。最北の地域では、夏の約2ヶ月間は太陽が地平線より沈みません。冬のクリスマスシーズンになると、太陽が地平線の上に顔を出さない時期が訪れます。この期間には、日に2~3時間にわたり、青い光を放つウインターシーズン特有の幻想的な光景が見られます。

南部では、夏の日照時間は1日最大19時間になります。クリスマスシーズンになると、日照時間は6時間ほどに縮まります。



VISIT FINLAND



THOMAS KASTI/ VISIT FINLAND

フィンランドの景色

飛行機の窓からもフィンランドの驚くべき景色を見渡せます。約75%の国土は森林に覆われ、10%近くが湖沼や河川になっています。当然、市町村や郊外地、野原や田畑、空港、工業地域、自動車道路、鉄道、沿岸地域などがありますが、国土のほとんどを森林が占めているのです。

フィンランドはおもに低地で、北部にわずかに山地が広がっているだけです。ただし、丘陵部と低地が交互に続く国全体が平地というわけではありません。

特にフィンランドの東部には、森に囲まれた驚くほど多数の湖沼が存在しています。たとえば、サイマー地域は相互につながる何百もの湖沼からなっています。ウォールストリートジャーナル紙は、サイマー地域を2014年

の世界で最も美しい場所のベスト5に挙げています。国内の水域、いわゆる内水という意味では、フィンランドは他国の追従を許しません。フィンランドは、何百キロにもわたる地下水脈、広大な水域、人知れぬ無人の入江を擁しています。約18万8000もの湖沼も存在します。

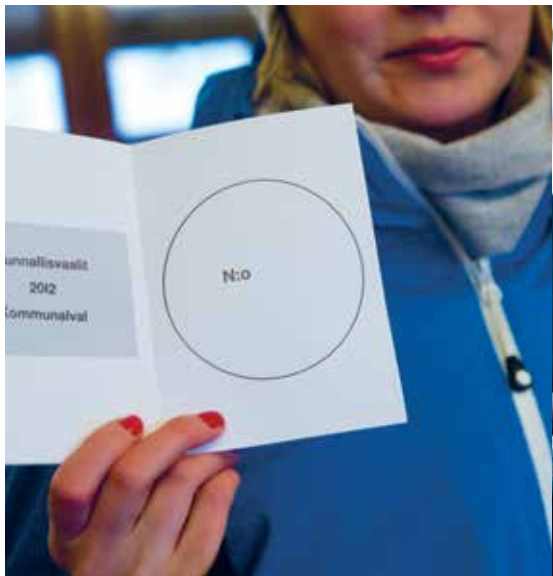
南西部に広がる群島は岩盤と海が作りあげるユニークな島と岩の集合体です。氷河期の圧縮による土地の隆起は、年に1センチ程度と推定されていますが、その計算に基づけば、フィンランドの国土が毎年約7平方キロメートルずつ広がっていると考えられます。

水の溜まった窪地から湿地帯まで、さまざま沼地もフィンランド名物のひとつです。沼地から産出されるピート（泥炭）は、フィンランドで消費されるエネルギーの約5%を賄っています。

森林、湖沼、群島が、土地の動植物と相まってユニークな自然環境を形づくっています。フィンランドでは釣り愛好家は70万人、狩猟愛好家は30万人にも上ります。

ラップランドはヨーロッパでも希少な手つかずの自然を残しています。好天が続く春は、ハイキングを楽しむ人々にとっても、スキーを楽しむ人々にとっても最高の環境を与えてくれます。ラップランドのコラリという小さな町の人口はわずか4000人ですが、3万5000人もの宿泊客を受け入れ可能です。

また自然へのアクセスも十分で、誰もが森林を散策し、ベリー類やマッシュルームを採ることができます。



■ 有権者 ■ 看護師

■ 消防士 ■ 学童

フィンランドの社会

200議席からなるフィンランド議会は4年ごとに選挙が行われます。次回の議会選挙は2019年の予定です。18歳以上のフィンランド国民が選挙権を有しています。議会では、現在8つの政党が議席を持っていますが、政党数が多いのはフィンランドの選挙制度に起因しています。フィンランドは連立政権ですが、これは各政党間がイデオロギーの相違にかかわらず、互いに協力していけるはずだということを示しています。

大統領は国民の直接選挙によって、1期6年の任期で選ばれ、最長2期と定められています。現大統領、**サウリ・ニーニスト**は2012年に選出されました。さまざまな権限に加え、ニーニスト大統領はフィンランド政府とともに外交政策を担当する責任者でもあります。

フィンランドには約300の自治体があります。各自治体は広範にわたる自治権を有し、住民により近い、地元ごとの意思決定が確保されるようになっています。地方自治体は土地利用や基礎教育・保健機関などさまざまな課題についての意思決定権を有しています。自治体議会の議員は4年ごとに選挙が行われます。すべての政党が、自治体議会における意思決定に参加します。

フィンランドの有権者は13人の欧州議会議員も選出します。



1

世界ベスト・ヒューマン・ キャピタル

2015年ヒューマンキャピタル
報告書
世界経済フォーラム

2

男女平等世界 第2位

2014年グローバル・男女格差
報告書
世界経済フォーラム

3

世界で最も腐敗度が低い国 第3位

2014年腐敗認識指数
トランスペアレンシー・
インターナショナル

専門性こそ力なり

フィンランドでは、義務教育は7歳で開始され、以降9年間続きます。総合学校修了後は職業訓練学校か高等学校に進学し、その後大学に進む者もいます。また、仕事に就きながら勉強を続ける者もいます。本人が望む限り、誰でも勉強を続けることが可能です。フィンランドでは大学院の研究員を含む誰もが学費を免除されています。総合学校、高等学校、職業訓練学校では、給食も無料です。フィンランドには大学が14校あり、ラップランドを含む各地域に配置されています。

フィンランドの教育システムは優れた成果を上げています。世界経済フォーラムは2015年においてフィンランドが教育分野、福祉分野および雇用分野で「ベスト・ヒューマン・キャピタル」を有していると発表しました。大学研究の国際ネットワーク、ユニヴァーシタス 21 (Universitas 21) によると、高等教育システムでは世界の大学ベスト第6位になっています。それに加え、フィンランドは青少年の数学的リテラシー、科学的リテラシー、読解力を測定するOECDのPISA調査の上位国に何度もランキングされています。教育は無駄になりません。最近のOECDのPIAAC調査によると、フィンランドの成人はITを活用した問題解決能力、数的思考力、読解力で世界2位にランクされています。

女性と男性

教育の平等こそが社会全体の平等をもたらします。フィンランドで男女平等は当然のことです。実際、女性の方が男性よりも成績が優秀であることが多々あります。フィンランドでは、これまでも女性が大統領や最高裁判所長官として就任したこともあります。女性の教授や企業幹部は珍しくありません。長い間フィンランドでは、ほぼ半数あるい半数以上の閣僚を女性が務めてきました。

保健医療やデイケアの高い水準も男女平等を後押ししてきました。セーブ・ザ・チルドレンの調査によれば、フィンランドは何度も「母親が最も子育てしやすい国」のトップにランク入りしています。フィンランドでは母親休暇を105日間受けられ、その後は、各家庭が子育て手当を受け、両親のいずれかが子どもと一緒に家で過ごすことができます。家族への福祉とは子どものための福祉を意味しているのです。UNICEFによれば、フィンランドは子どもの福祉では世界のベスト5に入っています。

階級制度に慣れた人々にとって、フィンランドは思いがけない経験を得る場になるはずです。多くの会社で、働く人々は役職にとらわれることなく、名前呼び合う関係を築いています。格式にとらわれないのは話し方だけではなく、フィンランドではヒエラルキー意識が低く、何ら

かの公式な場を別として、人々が自分のステータスをひけらかすことはありません。フィンランドの平等意識を裏打ちする理由のひとつに、封建的構造を一度も経験したことがなく、フィンランド人は常に一人ひとりの関係を結んできたということが挙げられます。

こうした理由から、フィンランドには汚職もほとんどありません。トランスペアレンシー・インターナショナルが作成した腐敗認識指数では、フィンランドは何度も「世界で最も腐敗度が低い国」の上位にランク入りしています。直近の指数では世界第3位にランクされましたが、これは私たちにとっては失望を感じるくらい残念な結果でした。

フィンランドのメディアは何ら検閲を受けず、自由に活動しています。ニュースソースの秘守義務への意識も高く、それが破られるのは重大な犯罪に関する訴訟においてのみです。1766年、スウェーデン王国の一部であったフィンランドは、行政開示法を施行した世界最初の国家となりました。こうした強力な伝統に沿って、誰でも行政文書へ無料でアクセスすることが可能となっています。行政当局は、行政部門の活動について、積極的に情報提供することが義務づけられています。



TOVE JANSSON / © MOOMIN CHARACTERS



JUSSI HELLSTEN / FLOW FESTIVAL

文化を愛する国民

フィンランドが生んだ「ムーミン一家」(トーヴェ・ヤンソン 著)は、おそらく世界で最も幸せで賢いファミリーではないでしょうか。そして複数の調査により、フィンランド人自身も多趣味なことから幸福であると感じることがわかっています。文学は非常に人気があります。フィンランド人は読書家で、各市町村には図書館があり、過疎地の住民のところにも移動図書館が訪れます。

演劇もまた人気があります。劇場はほとんどの市や町にあり、主要都市の劇場では公用語であるフィンランド語とスウェーデン語の2カ国語で上演されています。フィンランド特有のこととして、地方の教師からフィンランドの国民的作家アレクシス・キヴィにいたるさまざまな人物によって書かれた多種多様な劇が上演されることが挙げられます。

フィンランド映画は、コメディからホラー、探偵物からアニメにいたるあらゆるジャンルを網羅しています。フィンランドで最も観客動員数の高い映画の約25%は国内作品が占めています。映画ファンは、ソダンキュラ映画祭やヘルシンキ国際映画祭としても知られているラブ&アナーキーに集います。

フィンランドは熱狂的音楽ファンにとっては楽園です。夏になると大きなコンサートがさまざまな都市で開かれますが、そうした音楽は国の隅々まで配信されます。フェスティバルの演目はサヴォンリンナ・オペラ・フェスティバルからボリ・ジャズ、ヘルシンキ・フェスティバルからルイスロックと、クラシック音楽からポピュラー音楽まで多様です。

フィンランドには幅広い音楽機関のネットワークがあり、プロの音楽家に加え、優れた技術を持つアマチュアをたくさん生み出しています。

素晴らしい美術館や博物館は首都ヘルシンキだけでなく、その他の地域にもあります。これらの美術館や博物館の多くは、もともと個人や民間組織によって建てられたものです。タンペレやマンタをはじめ各地に点在しています。

美しいものはあらゆるところに存在します。建築や実用デザインはフィンランドで重要な位置を占めています。美術作品だけでなく、産業やサービス分野でもデザインに高い関心が払われています。

国民全体がスポーツ好き

フィンランド人はスポーツが大好きで、それはプロでもアマチュアでも同じです。1952年の夏季オリンピック以来、主要なスポーツ大会が多数開催されてきました。

アイスホッケーは最も人気のあるスポーツです。サッカー、バスケットボール、バレーボール、フロアボール、シンクロナイズド・スケーティングなどは、趣味として非常に高い人気があります。個人競技では、クロスカントリー・スキーや槍投げで優秀な成績を収めていることで世界的に有名です。

フィンランド人はまた、モータースポーツも大好きです。その理由のひとつとして、フィンランド人が良い成績を上げていることが挙げられます。フィンランドはわずか人口500万人程度の国でありながら、F1レースでは3人の世界チャンピオンを輩出しています。若いドライバーたちが数々のチャンピオンに続くことが期待されている、自動車ラリーも人気です。

フィンランド人は年齢にかかわらず、スポーツを趣味としています。子どもたちは学校で運動しますし、一般

1人当たり年間食料消費

75 kg	15 kg	15 kg	66 kg	80 kg	25 kg	178 kg	65 kg	11 kg	12 kg
肉類	魚類	木の実 (ベリー)類	果物・ジュース	穀物 製品	チーズ	液状体酪農製品	野菜	卵	コーヒー

市民のランニング大会やクロスカントリースキー大会にも何十万という参加者が集まります。国内の環境はアウトドアスポーツに最適です。

また、スポーツクラブが重要な役割を果たしています。フィンランドでは、選手であれボランティアであれ、スポーツクラブの活動に一生のうちどこかで参加する人がほとんどです。これらの活動には、子どもや青少年と一緒に働くことから、大規模な大会や競技会を組織することも含まれます。

魚とトナカイ肉とコーヒーと

酢漬けの生魚は、海で釣りたての新鮮さ。森で採れた野生の木の実、マッシュルーム、果物、チーズ。コーヒー、それも何人分ものコーヒー。

フィンランド人は大量の魚を食べます。淡水魚も海水魚もフィンランド人の食生活では大切な部分を占めています。パルト海産ニシンの料理法は何十というほどあります。蒸し煮またはローストして食べるトナカイの肉はフィンランド特有のごちそうで、ラップランドでの食生活では重要な位置を占めています。フィンランドではたいてい、森や農場から食卓までの距離は短くて済みます。消費者が直接キノコや木の実を採ったり、魚を釣ったりしたときが最短で、フィンランドではこのようなことがどこでも可能なのです。

フィンランド料理専門店は数件しかありませんが、レストランではどこでも、フィンランド産の材料が好ん

で使われます。フィンランドの都市には、活気あるレストラン文化が息づいています。フィンランド人シェフのなかには国際大会で成功を収めた者もいて、彼らの活躍によって高級グルメ料理の人気も上昇中です。

フィンランド発のフードカーニバル「レストラン・デイ」も、他の国々で人気を集めつつあります。年に4日、誰もが自分の家の庭や道端で特設レストランを開き、得意料理を通行人に売ることができるのです。

フィンランド人はまたコーヒー好きでも知られています。世界人口のわずか0.7%しか占めないにもかかわらず、世界のコーヒー豆100粒に1粒はフィンランドで消費されています。フィンランド人は1人当たり12キロのコーヒーを消費し、これはたとえばイタリア人の2倍にあたります。

フィンランドの湖沼や河川はザリガニが豊富です。ザリガニ釣りの季節は7月下旬から10月末までで、多くのフィンランド人にとって最も大切な風物のひとつになっています。ザリガニはそれ以外の時期に捕ることは禁じられています。

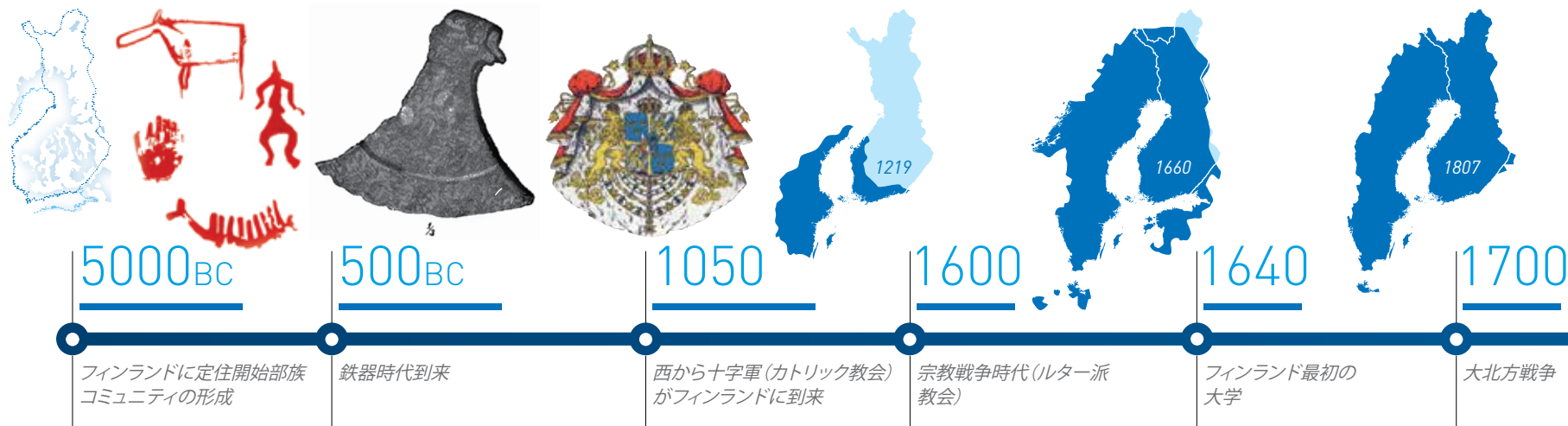
伝統的な家庭醸造のビールから近代的手作りビールへと変遷してきたフィンランドビールは、そのすばらしい風味で有名です。工業化された大規模醸造会社数社に加え、多数の小さな醸造所があり、それらの会社の製品は近隣でしか販売されないことも少なくありません。

フィンランドのアイスホッケーファン

PETR SZNAPKA / CTK / LEHTIKUVA



ARI HEINONEN / OTAVAMEDIA / LEHTIKUVA



フィンランドは どのようにして フィンランドになったか

古代

1万年以上前、北ヨーロッパは当時よりさらに11万年前に形成されたと考えられる氷河に覆われていました。

氷河が後退すると、主に南方から人々が現在のフィンランドのある地域に到着し始めました。当時は氷河でえぐれた窪地が多く、ほとんどの土地が水に覆われていました。その後氷河が後退するにつれ土地の隆起がはじまり、現在も隆起し続けています。

古代フィンランドのイメージは考古学的資料に基づいています。古代フィンランドについて記述された資料で

現存しているものはほんのわずかですが、そのなかには例えば、アイスランドのサーガなどがあります。

古代フィンランドは古代ローマ外縁のヨーロッパ各地とともに発展を遂げました。地域の統治者や行政組織はその当時の典型的なものでした。生活の手段は狩りと釣りで、また同時に国を越えた交易を遠く離れた国々とも行っていました。

キリスト教は東方と西方の両方からフィンランドに到来しました。ローマではなくコンスタンチノーブルの影響を受けて、西暦900年には早くもキリスト教がフィンランド南部には相当広がっていたと思われます。

12世紀に入ると、スウェーデンから侵入した十字軍がフィンランド人の信仰心にとってかわりました。宗教勢力と軍事勢力により、フィンランドはカトリックが主流の西側ヨーロッパ圏へ統合されていきました。フィンランドは600年以上にわたり、スウェーデンつまり西ヨーロッパの一部となったのです。西側諸国とフィンランド東部との

国境は各教会の境界同様、明確なものでなく、ロシア国境と連動して何世紀の間変化し続けました。

列強国の一部としてのフィンランド

政治的かつ宗教的理由から、スウェーデンで宗教改革が始まり、16世紀前半にはフィンランドでも改革が起こりました。17世紀には宗教戦争に発展し、スウェーデンをはじめ、フィンランド人も巻き込まれました。スウェーデンとロシアは国境をめぐる何世紀にもわたり戦争を繰り返しました。この戦争は1808-1809年のフィンランド戦争でスウェーデンがロシアに敗北し、終結しました。フィンランドはロシア統治のもと「自治大公国」となりましたが、自国のそれまでの法律や行政を保持し続けました。

フィンランドは100年以上にわたり、ロシア帝国の一部となりました。この時代、とくにロシア統治最後の何十年かは、躍進の時代として記録されています。



C.L.エンゲル設計によるヘルシンキを代表する建物



1809

フィンランドがロシアの一部に

1820

トゥルク大火災。
ヘルシンキが首都に

1848

国歌「わが祖国」

1849

民族叙事詩
「カレワラ」出版

1860

マルッカを自国
通貨として採用

1866

最初の小学校

1906

一院制議会。フィンランドは女性に完全
参政権を付与した世界最初の国

フィンランドはスウェーデン東部の周縁地域という位置づけから最も高度に発展したロシアの一部へとなっていました。

フィンランドはロシア統治下で議会を設置し、自国通貨を採用しました。フィンランドの商工産業、とりわけ木材加工産業が目覚ましく発展しました。

1849年に出版された『カレワラ』は国としてのアイデンティティという意味で、最も重要な出来事といえるでしょう。『カレワラ』は、民話にもとづく広大な英雄叙事詩であり、フィンランドに自国の歴史を与えることになりました。主人公の一人、ヴァイナモイネンは知識と神秘的な詩によって戦います。

『カレワラ』は芸術家、作曲家、作家にとってインスピレーションの源泉となりました。作曲家ジャン・シベリウス、詩人エイノ・レイノ、画家アクセリ・ガッレン＝カッレラおよびアルベルト・エデルフェルトら



多数の芸術家が、19世紀後半に文化の中核となる「フィンランド芸術の黄金時代」を築きました。『カレワラ』はまた、独立の気運に刺激を与えました。19世紀後半から20世紀初頭にかけて、ロシアが恣意的にフィンランドの法律の変更に着手し始め、抵抗を示さなければ征服されてしまうため、フィンランド人はレジスタンスに立ち上がりました。

第一次世界大戦中、反対運動は武装レジスタンスとなっていきました。その多くが中産階級・上流階級出身の若者たちで、歩兵の軍事訓練を受けるためドイツに渡りました。北ヨーロッパではロシア帝国の崩壊、フィンランドの独立とともに第一次世界大戦が終わりを告げました。

『フィンランドの乙女を襲うロシア帝国双頭の鷲』
エートウ・イスト (1899)

フィンランド独立

フィンランド市民戦争が1918年に勃発しました。赤軍はソビエト・ロシアと緊密な関係を持したいと考えました。一方、白衛軍は民族主義的また政治的理由から、フィンランドの独立を支持しました。ロシア軍に奉職したことのある最高司令長官、**カール＝グスタフ＝**



『サンボの防衛』に描かれたヴァイナモイネン
アクセリ・ガッレン＝カッレラ作、1895年



ヤリ・リトゥマネンはフィンランドサッカー界で最も成功を収めた選手。アヤックスの選手としてプレーし、チャンピオンズリーグで優勝しました。彼はまたリバプールやFCバルセロナの選手としてもプレーしました。



DAVE BRANCLIFFE / FR. IMAGES / LENTRAVIA

1917

フィンランド独立

1918

市民戦争終結

1920

最初の小児
クリニック設立

1938

育児パッケージ

1939

冬戦争勃発

1952

ヘルシンキ
夏季オリンピック
開催

1955

ノルディック・パスポート・ユニオン。フィンランド国連に加盟

1971

サッカー選手
ヤリ・リトゥマネン
誕生

エミール・マンネルヘイムは戦争の英雄となりました。彼は急遽編成した軍隊を率い、レジスタンス運動に加わった若者たちもまた重要な役割を果たしました。この戦争によって何十年の間フィンランドは2分されることになりました。

独立後の数年間は主に発展と成長の年月でした。意義ある改革の中には1920年代の小児クリニックの設立も含まれています。妊娠中の女性や若い母親も公的な保健医療の対象となり、フィンランドの乳幼児死亡率は急激に下がりました。その頃、小学校制度が国の遠隔地でも適用され、就学は義務化されました。大規模な土地改革が進むなか、階級構造廃止に向け、農村地域の土地のない人々には耕作地が供与されました。

しかし、1939年から1944年にかけての2つの戦争によって、こうした発展の好機は中断されてしまいます。まず、ソ連のフィンランド攻撃を受け、冬戦争（1939-1940）が勃発しました。軍事力で上回る敵を相手に、

フィンランドは独立を守り抜きました。ドイツのソビエト侵攻をきっかけに、1941年には継続戦争が勃発。フィンランドは1944年秋にソ連と和睦し、ドイツ軍を自国領土から撃退しました。

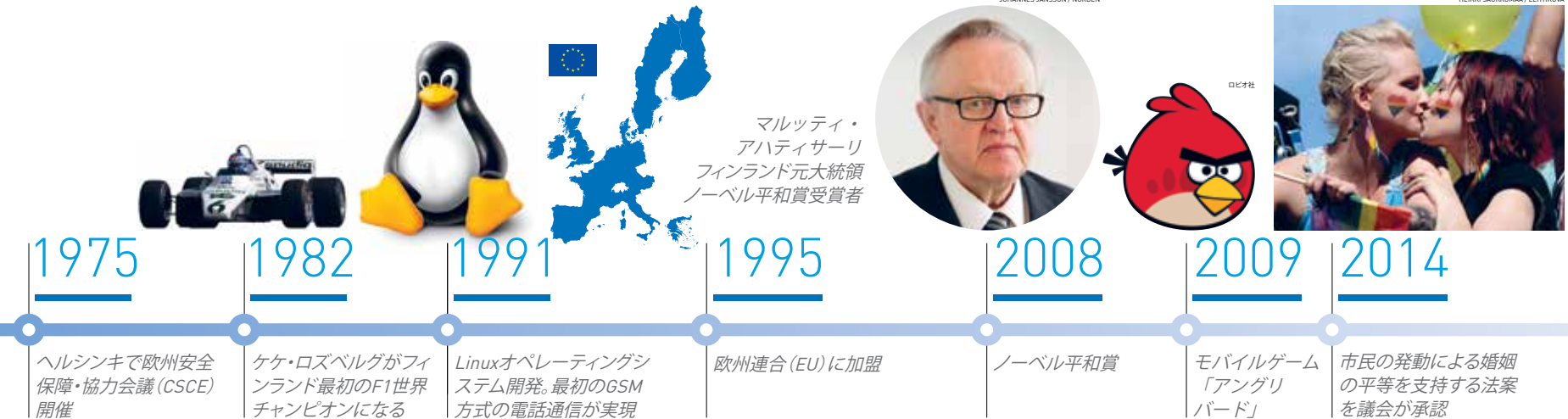
この2つの戦争の結果、フィンランドは、当時第二の都市であったヴィープリを含む国土のかなりの部分を失いました。ソ連に移譲された地域の住民たちは、フィンランドへと移住しました。フィンランドは40万人以上の人々を再定住させることが必要になりました。これは大規模な事業でした。

近代フィンランド

戦後、フィンランドは工業国への道を進み始めました。国は民主主義を保持しました。多額の戦時賠償の負担が、結果としては「災い転じて福」となったものの、フィンランドは多くの産業、とくに金属工業を、ほとんどゼロの状態から興さなければならませんでした。

また同時に、農業の代わりにより高い収入が得られる工業に従事しようと、人口の多くの割合が農村地帯から徐々に都市部へと流入し始めました。戦後、人口増加が進行し、現在でも1947年生まれの人々のフィンランド人はこの国で一番大きな年齢集団を形成しています。人口増加と都市化に伴い、人口が移動しました。1960年代には約20万人がフィンランドを離れ、スウェーデンをはじめ、産業発展によって新たな労働力を必要としている国々へと向かいました。

スウェーデン、ノルウェー、デンマーク、アイスランドは協力関係促進のため1952年に北欧理事会を設立しました。フィンランドは国際緊張が緩和されたのを受け、1955年に欧州理事会に加盟しました。北欧5カ国はノルディック・パスポート・ユニオンに加わり、共同労働市場に合意しました。北欧諸国の市民は自国以外の北欧諸国にパスポート無しで旅行でき、居住でき、また働くこともできるというものです。



復興から福祉へ

1952年は大きな変革、そして新たな出発の時でした。フィンランドは多額の戦時賠償を支払い終え、ヘルシンキ夏季オリンピックが呼び水となり世界各地から旅行者が来訪しました。また、アルミ・クーセラがミス・ユニバースに輝きました。

ソ連は折にふれて、フィンランドの内政や国際的地位に影響力を行使しようとしたが、それ以外、フィンランドにとって戦後の数十年は政治的な問題のない時期でした。

ソ連との貿易は多額の利益をもたらしました。フィンランドは原油をはじめとする原材料を輸入し、工業製品を輸出しました。

西側諸国とのつながりは体系的に強化されました。フィンランドは1955年国際連合に加盟し、1961年には欧州自由貿易委員会 (EFTA) の準会員に、また1986年

には正会員になりました。1973年には欧州経済共同体 (EEC) と自由貿易協定を結びました。1995年初めに欧州連合 (EU) に加盟したことで最高潮を迎えました。

フィンランドは機会平等、社会保障の整備されたネットワークと民間経済を特徴とする北欧の福祉国家へと発展を遂げました。今日、フィンランドから他国へ移住する人を上回る数の人がフィンランドに移住しています。

さまざまな観点から見て、フィンランドはヨーロッパのモデルとなっています。民間企業と公的部門との協力は、第三セクターの参加もあり、まさにフィンランド独自のものとなっています。それらの機関は特に保健やレクリエーションの分野で重要な役割を果たし、多くの意義ある基金が科学や文化の分野で活動しています。フィンランド経済は、労使が今まで難しい課題についても合意してきた歴史に見られるとおり、安定しています。

世界の中のフィンランド

フィンランドは北欧諸国のひとつで、他の北欧諸国との強い政治的・文化的な結びつきがあります。フィンランドはヨーロッパの民主主義国であり、欧州連合の一員であるとともに国連の積極的な加盟国でもあります。何十年にもわたり、フィンランドは世界中の平和維持活動や紛争解決活動に参加してきました。元フィンランド大統領のマルッティ・アハティサーリは、紛争解決に尽力し、ノーベル平和賞を受賞しています。1988年には、ノーベル平和賞が国連平和維持軍に贈られましたが、維持軍の中には2万人のフィンランド人が含まれています。

経済

フィンランドは生活水準の高い北欧諸国に属し、欧州連合（EU）の一員でもあります。国の1人当たりのGDPは、約37,500ユーロ(2014年)です。フィンランドよりこの数値が高いEU諸国はわずか3カ国しかありません。それは、スウェーデン、デンマーク、ルクセンブルグです。また、オランダ、ベルギー、アイルランド、オーストリア、ドイツの裕福度はフィンランドと似通っています。フィンランドの物価は比較的高いのですが、その理由のひとつに運送距離の長さが挙げられます。購買力平価で換算した場合、フィンランドのGDPはほぼフランスあるいは英国と同等になります。フィンランドの所得配分は均一で、この点は他の北欧諸国と酷似しています。フィンランドは2002年にユーロを採用しました。

サービス産業は他の産業を大きく引き離し、最大の雇用主となっています。フィンランドで製造される製紙機械やリフトその他の資本財などの設備・保守サービスは、輸出の多くの割合を占めています。

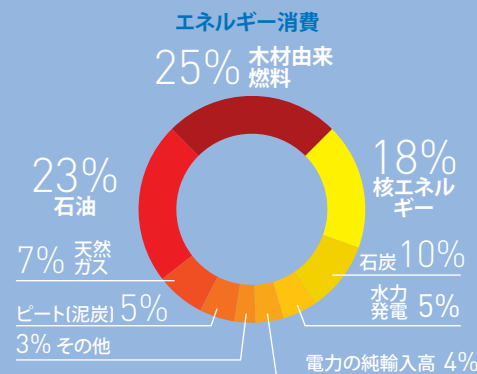
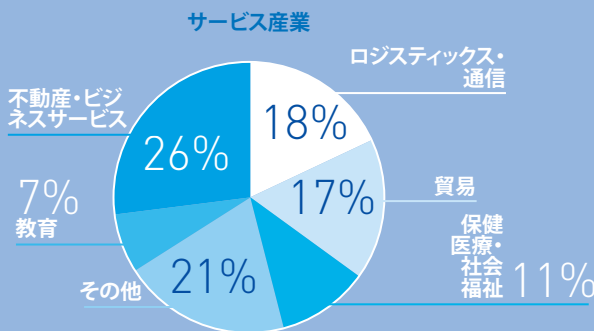
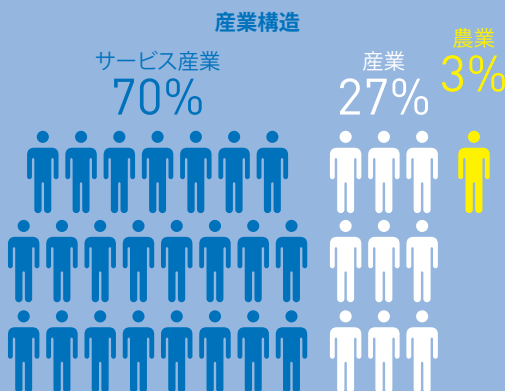
フィンランドは、どちらかといえば、輸出が重要な役割を果たす、いわば開かれた経済です。再生可能な原材料を利用している森林産業は、最も重要な部門であり続けていますが、その内容は変貌を遂げつつあります。森林産業では紙に加え、化石燃料の代替となるような木材をベースとする燃料など、新たなタイプの製品を製造しています。

森林産業と並行して、ここ数十年の間に機械工学産業を含むその他の産業も生まれてきました。フィンランドは造船、大型ジーゼルエンジン、リフト、製紙機械の製造の分野で先進国と言えます。フィンランド人は、とくに浄水処理といった化学工業や電子工学・ソフトウェアの分野でも優れた能力を発揮しています。LinuxのOSはフィンランド人、**リーヌス・トーバルズ**によって開発され、世界最初のGSM方式の電話通信は、フィンランドの携帯電話通信網を使って行われました。最も顕著なサクセスストーリーは、ロビオ社の「アングリーバード」

やスーパーセル社のクラッシュ・オブ・クランを含むフィンランドのゲーム産業のなかに見てとることができます。

フィンランドで育つ技術革新ゲーム産業、電子工学、ソフトウェア製造に加え、フィンランドが世界市場の1%を占めるクリーンテックでは、新たなビジネスが常に生まれています。毎年ヘルシンキで開催される起業家の祭典「スラッシュ」は世界でも最大級のスタートアップイベントのひとつです。

冬は寒く、産業が盛んなので、フィンランドのエネルギー消費は高水準です。石油やガスのような輸入エネルギーに加え、木材をエネルギーに利用することも重要です。原子力と水力発電が主要な電力供給源です。木材は最も重要な再生可能エネルギー資源です。風力発電と太陽光発電の果たす役割はごく限定的ですが、増加しつつあります。



ビジネス環境

フィンランドは世界で最も腐敗度の低い国のひとつで、これはビジネスライフにも反映されています。フィンランドは、トランスパレンシー・インターナショナルのさまざまな調査研究で、常に最も腐敗の少ない国の中にランキングされています。様々なレベルの合意ごとは尊重され、フィンランド人は約束を守ること知られています。司法制度は独立、公正で、事件は法に照らし、公正に審議されます。雑誌エコノミストは、フィンランドをビジネス環境に優れた国のトップテンに挙げています。

フィンランドはまた、技術革新を進め、高品質の製品を製造しています。最近の欧州連合（EU）の調査によると、

フィンランドはヨーロッパ諸国の中で最も高品質の輸出製品を生産しています。グローバル・イノベーション・インデックスでは、世界で技術革新の進んだ国の第4位にランクされ、クリーンテックとエコ・イノベーションでは第2位にランクされています。雑誌ワイアードは、起業のしやすい世界のベストカントリーのひとつに挙げています。

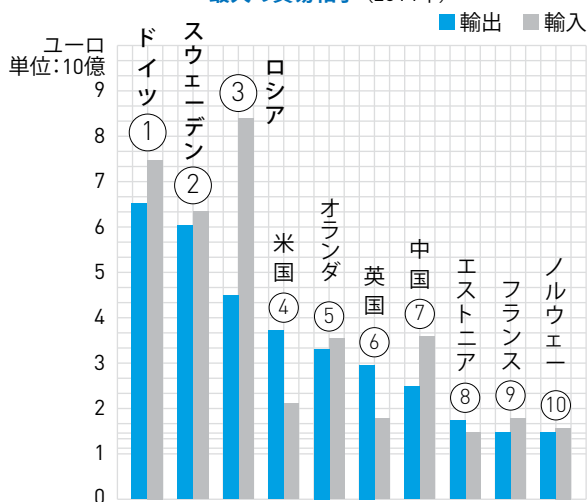
フィンランドはデータや電話ネットワークを含む、機能性に優れたインフラを有しています。OECDの報告書では、世界で最も優れたワイアレス・ブロードバンド接続を有しているとしています。

教育水準が高く、フィンランドは高等教育を修了した人の数でOECD諸国のベストテン入りをしています。OECD報告書では、フィンランドの成人は世界で最も読解力、数学能力、問題解決能力を備えているとしています。

フィンランドはまた、諸外国と比較して犯罪が少なく、治安が良いことでも知られています。ヘルシンキが世界の都市ベストテンにランク入りしているのも何ら不思議ではありません。

こうしたことすべてが、また別の実績へと結びついています。世界経済フォーラムでは、フィンランドを世界の競争力がある国第4位としています。

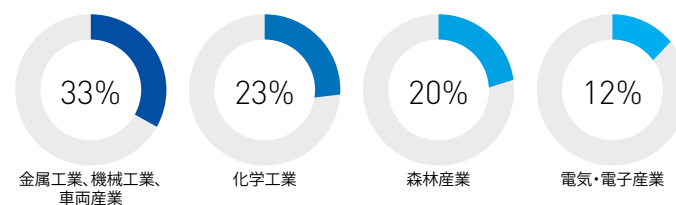
最大の貿易相手（2014年）



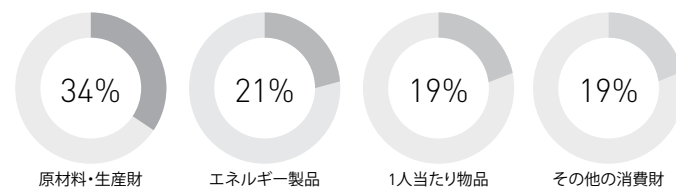
国グループ別の輸出高（2014年）



製品グループ別の輸出高（2014年）



製品グループ別の輸入高（2014年）



国のシンボル

「フィンランドの閃光」というニックネームを持つ
チーム・セランネはアイスホッケーNHLリーグで
 21シーズンにわたりウィニペグ・ジェッツ、
 サンホセ・シャークス、コロラド・アヴァランチ
 の選手としてプレーしました。セランネはNHLで
 684ゴールを奪い、過去最多得点をあげました。



フィンランド国旗



1918年 公式に承認

フィンランド紋章



ライオンは、たとえばスウェーデンの2つの地域の紋章にも使われるなど、古来からのシンボルです。**スウェーデンのグスタフ1世**の墓に当初のフィンランドの紋章が見られます。この紋章はスウェーデン東部地域のシンボルとなりました。その後、フィンランドがロシアの自治領となった時にフィンランドの紋章になりました。この紋章が公式に承認されたのは1917年のことです。

紋章のバラは歴史あるフィンランド6州を表しています。紋章は、商業目的を含め、様々な場面で使われています。フィンランド代表アイスホッケーチームは、ライオンの絵がユニフォームに付けられてから「ライオンズ」というニックネームで呼ばれています。

国の鳥

オオハクチョウ



国の動物

ヒグマ



国を代表する昆虫

ナナホシテントウ



国を代表する魚 ヨーロッパパーチ



国の花

スズラン



国の樹

白樺



国歌

フィンランド国歌『わが祖国』は、1848年にフレドリク・パーシウスにより作曲されました。歌詞はユーハン＝ルードヴィーグ・ルーネベリによるもので、もともとはフィンランド戦争(1808-1809)をうたった叙事詩『The Tales of Ensign Stål』のために書かれたものです。

『March of the Pori Regiment』は共和国大統領とフィンランド防衛軍の名誉を称えるマーチです。作曲家は不詳ですが、このマーチは18世紀の作曲と考えられています。この曲は、フィンランド選手がオリンピックで勝利を収めた時など、特別な功績を祝うためにも演奏されています。

交響詩『フィンランディア』はジャン・シベリウス作曲の交響詩『歴史的情景』の最後の部分を独立させたものです。本曲は当初歌うことを想定していませんでしたが、男声合唱のための編曲がなされ、この楽曲は非公式な国歌として、祝祭日を祝うために演奏されるようになりました。



『我が祖国』は1848年に初演されました。

独立記念日

フィンランドは12月6日に独立を祝います。フィンランド議会は1917年12月6日に正式に独立宣言を承認しました。祝い方はさまざまです。人々は日が暮れると2本の灯火のともったキャンドルを窓辺に置きます。

国の識別コード

国際電話国コード: +358

インターネット・ドメイン: fi

車両・船舶用国コード: FIN

航空機コード: OH



オーランドの旗

オーランド自治区は1954年以来独自の旗の使用が認められています。



オーランドは何千もの島々からなるフィンランドの一地域です。この地域は自治区です。人口はほぼ3万人。オーランド諸島はまず、船乗りの伝統があることで知られています。オーストラリアからヨーロッパへと穀物を運ぶ大型帆船の大部分が100年近く前まで出港していました。船乗り業は、今でも重要な役割を果たしており、住民の10%が船乗り業に従事し、外国行きのフィンランド船舶の40%はオーランドから船出しています。



サーミの旗

サーミの旗はサーミ人居住地域で共通する旗です。フィンランド北部に加え、スウェーデン、ノルウェー、ロシア北西部でも使われています。

サーミ人は過去20年から30年の間に、主に文化関係の協力活動を拡充してきました。実際には、サーミ語やサーミの伝統の育成に力を入れています。フィンランドには1万人のサーミ人が住んでいます。フィンランドのサーミ人の多くは、北部ラップランド以外の場所で暮らしています。2000人近くの人が第一言語としてサーミ語を話します。サーミ人はヨーロッパに居住する唯一の先住民族で、フィンランド、スウェーデン、ノルウェー、ロシアに居住しています。

従来のサーミ居住地域



質の高い教育

フィンランドでは、義務教育から高等教育まで無料です。フィンランドの若者はOECDの学習到達度調査（PISA）で世界のトップグループにランクされています。また、世界で最も優れた大学システムを持つ国のひとつと国際的にも評価されています。

コネ社



KUNATONIMISTO RODEO / LEHTIKUVA

開かれた社会

毎年、フィンランドは世界で最も腐敗の少ない国のひとつとして位置づけられています。フィンランドの社会は開かれ、公務員は誠実かつ忠実です。フィンランド人は、行政や裁判所で課題が公正に処理されることを当然のこととしています。



技術能力・専門性

クリーンジーゼル、1000メートルまで昇降が可能なリフト、コンピュータのOS、浄水技術、豪華客船、そしてゲーム「アングリーバード」など、さまざまな技術がフィンランド経済の根幹を成しています。

KAAPO KAMU / HARRISONPARROTT



母親に優しい国

子育ての広範なネットワークが1920年代に作られて以降、子どもの福祉が体系的に促進されてきました。今日、すべての両親に子育て休暇をとる権利があり、希望すれば子どもをデイケアに預けることもできます。

JUSSI TAINEN

数々の指揮者の故郷

フィンランドは文化を含むあらゆる分野で教育が必要だと考えています。全国各地の音楽学校は高い技能教育の基礎を備えています。フィンランドはオペラからバロック音楽にいたる世界最高レベルの指揮者、歌手、演奏家を何人も輩出してきました。



記念建築物

フィンランド人は自然からのインスピレーションが感じられる建築を好みます。エリエル・サーリネン、アルヴァール・アールト、レイマ・ピエティラなどの有名建築家の作品をはじめ、広く構築環境の中に機能美を見ることができます。



湖の国

フィンランドには森にたたずむ小さな池から広大な湖まで、8万8000近くの湖沼があります。どこの湖でも安全に泳ぎ、釣りをすることができます。また、湖は都市部や人口の密集した地域への安定した水供給の確保にも役立っています。フィンランド人は次の世代も湖沼の恩恵を受けられる様、入念に手入れをしています。

LAUREN BATH / VISIT FINLAND



ユニークな自然環境

フィンランドの国土は南部の群島から北部の原野や丘陵地帯まで1000キロメートルにわたり延びています。はっきりとした四季の変化がフィンランドの自然の多様性に一層の変化を添えています。全面積の約75%が森林に覆われ、何千種という動物の棲みかとなっています。

VISIT FINLAND



自然は皆のもの

フィンランドの自然環境は誰でも簡単に楽しむことができるようになっています。個人の庭や耕作地以外であれば、誰でも森を散策し、ベリー類やキノコを摘むことができます。

JUHA MÄRTÄ / VASTAVALO / VISIT FINLAND



それぞれの季節

夏は活力に満ちた季節ですが、秋は冬の訪れ前の準備期間です。おとぎ話のような銀世界の後、春には自然が再び眠りから目を覚まします。フィンランド人に季節の好みをたずねてみてください。4種類の答えが返ってきます。

ANTTI AIMO-KOIVISTO / LEHTIKUVA

皆のための、あらゆる活動のための空間

EU諸国のなかで、フィンランドは人口密度の最も低い国です。フィンランドには、散策、スキー、サイクリング、釣り、湖沼めぐりや、ただ楽しむだけのスペースが広がっています。大都市でさえ、平和で静かな自然まで、自転車ではほんの少しの距離です。



スポーツへの情熱

フィンランド人は、プロのスポーツ選手もレクリエーションで楽しむ人々も、スポーツを愛しています。アイスホッケー、槍投げ、モータースポーツ、その他、自分の応援する選手が良い成績を収めることを願っています。



フィンランド情報

フィンランドが 上位ランクを占める分野

世界で最も安定した国

2014年脆弱な国指数：平和への礎

フィンランドは指数が算出対象となった178国中、最も安定し、国の崩壊の危険に対し最も脆弱性が少ない国です。

フィンランドは人的資源を十分に有効活用しています。

世界経済フォーラム2015年ヒューマンキャピタル報告書

フィンランドは教育、福祉、雇用といった指数に基づく人的資源において第1位にランクされています。

フィンランド - 世界のために貢献する国

良い国指数

良い国指数は各国が人類全体のためになした貢献と搾取を測定したものです。

ヨーロッパでもっとも清浄な空気

2014年環境パフォーマンス指数

フィンランドはヨーロッパではアイルランド、アイスランドとともに、もっともきれいな大気を有しており、世界各国の中でもトップグループにランクされています。

男女平等第2位

世界経済フォーラム2014年グローバル・ジェンダー・ギャップ報告書

フィンランドは世界経済フォーラムの2014年グローバル・ジェンダー・ギャップ報告書で第2位にランクされています。

EU諸国におけるベスト・クオリティー・オブ・ライフ

ユーロスタット2015年

欧州委員会の統計部局ユーロスタットによると、フィンランドは生活の質に関し、EU諸国の中で第1位にランクされています。

母親に優しい国

セーブ・ザ・チルドレン2015年母の日レポート

フィンランドはこの年次レポート「母の日レポート」で第2位にランクされています。



発行

2015 年

フィンランド外務省

コミュニケーション局

パブリック・ディプロマシーユニット

P.O. Box 481, FI-00023 Valtioneuvosto, Finland

E-mail: IE-50@formin.fi

制作:

Advertising Agency Kitchen

Matti Sovijärvi, Rik Poppius

翻訳:

AAC Global

印刷

Lönnberg Oy

表紙写真:

Pihla Peurasaari / Visit Finland

本誌記事は執筆者の責任に基づいて書かれています。

フィンランドについてのより詳しい情報は:

 **this is
FINLAND.fi**
things you should and shouldn't know

ISSN 1238-173X

参考資料としてご自由にお使いください。

